

2. 平成28年度の事業報告

1) 平成28年度事業の背景と概要

学園は、創設以来、地域の皆さまからの温かいご支援をいただき、学園の建学の精神である「学識と技術の錬磨、報恩の精神、不撓不屈の精神」に則り、地域の要望に応えるべく、それぞれの学校の特色を生かした教育活動を展開しています。その結果、現在では、トップエリート教育体系校(高等学校、中学校、小学校)とプロフェッショナル教育体系校(大学、専門学校)というふたつの教育体系を擁する総合学園として、様々な分野で次代を担うリーダーの育成を使命とした教育に取り組んでおります。

学園教育の重点のひとつに「ホスピタリティに根差した教育活動」があります。人間として大切な思いやり、感謝の気持ち、素直な心をもった人材の育成を目指しています。「真に社会に認められる人材は、思いやりの心に根差した豊かな人間性を身につけることが不可欠である。」との基本理念のもと、学園全体がホスピタリティを基盤とした人材育成を目指しています。

こうした教育活動を進める中、学園を取り巻く厳しい経営環境に対応すべく、教職員が一体となり、学園の組織改革を進めるとともに様々な改善計画や不祥事の再発防止策等を検討・実施してきました。着実に進行する少子化の影響、不透明な経済情勢等により、私立学校の経営環境は厳しさを増しております。より魅力ある教育環境を児童・生徒・学生に提供するために、今後も地域に根ざし、魅力ある学園づくりに取り組んでまいります。

2) 部門別の諸活動報告

(1) 法人本部

① 学園の組織改革

学園の経営基盤を強固にして学園運営を円滑に推進するため組織改革を進め、学園組織を「組織規程」として見直しました。各種委員会組織は、財政委員会、広報委員会が定期的開催され、学園全体の運営改革及び理事会への答申事項についての審議を活発に行っています。また、監査機能の充実強化を図る目的で、学園監事による監査に加え、内部監査を日常的に行う内部監査室を発足し機能しています。また、既存の規程類の見直しによる制定・一部改定も行われ、施行されています。

② 経費節減の取り組みについて

学園の経営環境の厳しさを改善する策として、各校の経費節減策が成果を挙げました。

ア 学生・生徒募集、広報の手段としてWeb化を一層進めました。各校のホームページのリニューアルとともに中学、高校、大学で入学試験の際に「インターネット出願」が導入されました。

この出願方法の採用により全てWebを利用した手続きとなりました。これにより事務処理の

効率化も図られ、経費の節減効果も生まれました。小中高で、Web を利用したネット出願の採用により年間経費が合計約 640 万円節減されました。

イ その他の各校の経費節減（表 1 参照）

・経費節減事例一覧

単位：万円 【表 1】

項目	部門名	平成 27 年度	平成 28 年度	前期比
電気料金クールビズ期間	全校	1,757	1,573	184
広報看板	全校	1,542	1,264	278
電力会社変更	全校	5,422	5,263(見込)	159
印刷機交換	専門	95	26	69
振込手数料	全校	116	58	58
給茶機入替	小、専	113	47	66
車両保険料	全校	111	84	27
警備誘導	小学校	2,889	2,488	401
学会等諸会費	全校	287	159	128

③ 学園職員研修について

私学の経営環境が厳しさを増す中、学園の教育活動の使命達成に向けて全職員が建学の精神、教育方針に基づく認識を共有するため、その時々課題に応じた研修会を開催しました。平成 28 年度は、学園全体の横断的な研修として、3 月の新任職員研修のほか、各校単位での新年の年頭研修会、新年度研修会が行われました。また、各校の学生、生徒、児童の指導に反映させるよう
 中学高校では、「人権教育」、「個人情報取扱」、大学では、「コンプライアンス」、「研究倫理」、「ハラスメント」などをテーマとした研修会が実施されました。

④ 学園の地域貢献活動

ア 大学、中高の地域貢献活動

学園各校が地域の住民と協力し行っている地域貢献活動は、多岐にわたっています。大学は狭山市との間に連携に関する「基本協定書」を締結し協力関係の強化を図っています。「さやま市民大学公開講座」には大学教員が講座を担当し、「狭山市の魅力づくり事業」には大学の学生が参画するなど活発に地域との交流を進めています。大学の看護学部は、地域住民の健康増進活動や地域の看護職の研究指導等を実施しました。

また、中学高等学校の生徒は、新狭山の駅周辺の清掃ボランティア活動をクラブ員が中心となり、夏と冬の年 2 回実施しました。高齢者施設を訪問しての音楽関係のクラブのミニ演奏会なども行われています。

イ 学園ハンドベルコンサート開催

学園各校が一同に会し、学園の教育活動の一端を地元の皆さまに知っていただく学園全体の行事にハンドベルクリスマスコンサートがあります。これは、学園各校の連携と結束を強めることを目的として、毎年年末に学園全校が参加して開催されるイベントです。平成 28 年度は、12 月 18 日(日)に第 14 回目のコンサートを狭山市市民会館で開催しました。ご来場いただいた地域の

皆様には、心をなごませるやさしい音色にひたる機会として、また、児童、生徒、学生、保護者にとっては、日頃の練習の成果を発揮し、チームワークを実感する場として意義深い行事となりました。

(2) 西武学園文理小学校

日本人としてのアイデンティティをもった世界で活躍する「トップエリート」の育成

① アフタースクール

アフタースクール「グローバルアカデミー」は、運営時間の延長、運営日の増加など利用しやすいように改善してきました。長期休業中も特別に運営し参加者も増えています。取り扱う内容も学習への興味を高めるだけでなく、自主性、プレゼンテーション力の向上など工夫したプログラムで実施しています。

② 心を育てる

「人とのコミュニケーションは挨拶から」との思いで、登下校時は正門で挨拶指導を行っています。また、清掃活動では学年の枠を超えた仲間と一緒にいき、上級生は下級生を思いやり、下級生は上級生を敬う気持ちを育てています。さらに食を通して日本人としての心を学ぶプログラム（和食作法教室）も実施し、日本の伝統文化を学ぶ機会を設けています。

③ 知性を育てる

知識を使って自ら考え表現するコミュニケーション力を鍛えるために、5年生、6年生の2年間をかけて「卒業研究」を行っています。課題設定→調べる→考える→まとめる→プレゼンテーション→ディスカッションというプロセスの中で実施し、6年生の3学期には保護者の前で一人ひとりがその成果を発表し、まとめる力だけでなく、人にわかりやすく伝えるという体験にも取り組んでいます。また、ICT教育の一環としてタブレット型コンピュータを導入し、時代の流れに沿った教育を導入しています。

④ 国際性を育てる

日本人教員と外国人英語講師がティームティーチングで担当する教科を設定し、英語に触れる授業時間を週10時間以上設けています。また、校舎内は英語の表示を増やし、身近なものから英語を学ぶことを心掛けています。さらに5年生は英国短期留学、6年生は米国研修を実施し、幼い時期から外国人と接し外国の文化に触れることで豊かな国際感覚を育てています。

⑤ 実体験から学ぶ

学年ごとにテーマを決め、様々な体験プログラムを実施しています。低学年では、自然観察会、農業体験（田植え）を実施し、自然や食物への興味関心を引き出しています。高学年では東京大学見学会を実施し、文理高校卒業生の案内のもと楽しみながらキャンパス内を散策しています。早くから大学進学をイメージできるように工夫しています。

⑥ 中高との連携

小学校クラブ活動日に高校のクラブ員に来校してもらい、高校生によるクラブサポートを再開しました。この活動は技術面の向上だけにとどまらず、サポートしている高校生を将来の自分の姿と重ね合わせているので、文理高校に進学したいと思う気持ちが強くなり、小中高連携活動の一つとして機能しつつあります。

(3) 西武学園文理中学・高等学校

① 西武学園文理中学校

ア 12年間一貫教育

学園の教育の重点である“グローバル人材育成プログラム”は、日本の伝統と文化を十分に理解したうえで国際人としての教養と洞察力を身に着けることを目指すものであり、西武学園文理小学校・中学校・高等学校の12年間にわたって推進しています。

また、本校では“本物”に触れる体験や早くから社会の一員としての自覚を高めるためのキャリア教育も重視しております。文理の教育の重点を実現するための特色ある教育活動に取り組んでいきます。

イ 英語教育

西武学園文理小学校では英語に親しむことを目的としたイマージョン教育を通じて、特に、listening力とspeaking力を養い、文理中学校では、それを引き継いで大学入試に向けたreading(表現)力、writing力を伸ばす教育へと展開していきます。平成28年度も、夏休み中に希望者を募って外部施設で“一日中英語漬けとなる合宿研修(イングリッシュサマースクール)”を実施したほか、同じく夏休み中に高校生を対象にハーバード大学の学生を招いて開講した「ハーバード大学英語プログラム」には、中学3年生の希望者も参加し、“英語で考え、それを相手に伝える”という国際社会で基本となるツールとしての英語学習に取り組みました。最終日には中学生もボディアクションを交えたプレゼンテーションを行うことができ、英語に対する自信を深める成果が認められました。参加生徒の学習効果から平成29年度は参加者を中学2年生まで拡大することも検討しております。なお、本校の英語授業では、授業の進め方として生徒の英語力のレベル差に応じた習熟度別授業を取り入れることで、全生徒のレベルアップを目指すなど、語学を通じてのグローバル人材育成を進めています。

ウ 日本の伝統と文化に触れるアクティブ・ラーニング

グローバル社会で活躍する人材は総じて自国の伝統・文化を大切にしていることを踏まえ、本校でも日本人としてのアイデンティティを自覚することを目的として中学2年生で鎌倉及び奈良・京都で校外学習を実施しています。この校外学習は、少人数のグループごとに自分たちの課題を見つけ、自分たちで調べる能動的な学習方法であるアクティブラーニングを実践しています。事前研究及び事後学習により、自ら学ぶことの楽しさを体験しました。また、この行事では現地で指導いただいたガイドさんへのお礼状発送など、社会生活におけるマナーも学びました。

エ オーストラリア研修

平成27年度まで実施されていたイタリア研修をヨーロッパの治安を考慮し、英語圏であるオーストラリア・メルボルンでのファームステイ研修に変更し、中学3年生全員を対象として2月2日、3日出発の2班に分かれて7日間実施しました。生徒はあらかじめオーストラリアの文化・歴史・観光施設などを調べてクラスごとにオリジナルのガイドブックを作成し、幅広い事前準備を行いました。ファームステイとあって最初はかなり緊張していたようですが、この異文化体験は将来の国際人を目指す生徒にとって貴重な経験となり、有意義な研修となりました。

オ キャリア教育（狭山市民大学）発表会

西武文理中学高等学校のスローガンに上げられている「21世紀型スキルの育成」に向けた「狭山市民大学」および「狭山市役所」と連携した総合学習を行いました。このキャリア教育は次の3点を目的としたものです。

- (ア) 本校所在地である狭山市を知り、地域社会とのかかわりの中で課題解決学習に取り組み、自己有用感を高めるとともに、教科を越えて「思考・判断・表現」する力を育てる。
- (イ) 地域社会とかわることで社会に参加する一員としての自覚を育て、社会生活におけるマナーを身につけること。
- (ウ) 地域社会と生徒が交流することで、地域との関係を深め、開かれた学校づくりをすること。

これらの取り組みを報告する場を設け集大成として、その成果を3月23日に狭山市民会館にて発表しました。また、この取り組みの内容について埼玉新聞3月29日版にも掲載されました。発表は「ガーデンシティーさやまを育てよう」「さやまの日本一をプロデュース」「川のあるまちの魅力を活かす～入間川をシンボルにしよう」「狭山の祭りのプロジェクト」「商店街イベントプロジェクト」「2020年東京五輪・外国人向けおもてなし」の6テーマです。

② 西武学園文理高等学校

ア 合教科型授業

複数の教科によるコラボレーションの授業であり、大学入試改革の中でも検討されている“合教科型授業”を取り入れて実施しました。一例として、英語と日本史のコラボレーションによる「新渡戸稲造」。グループごとにタブレットを使用し歴史的背景を調べ、生徒一人ひとりが調べた情報を発信し共有。それらの情報を踏まえて大学入試問題英文を解釈していくことにより、背景となる知識が英文解釈に寄与する。一つの教科に偏ることなく、バランス良く知識を習得しようとする意欲につながる点が利点です。

また、オープンキャンパスの体験授業にも取り込み、本校への進学を目指す中学生に体験してもらいました。

イ PBL (Project Based Learning) 型総合学習

実社会での取り組みを体験することで、現在学んでいる教科との関連性に気付き、「学ぶ意義」を掴む課題解決型学習を導入しました。各分野の第一線で活躍する方や大学生ボランティアがグループワークに参加し、チームワークやコミュにケーション力、プレゼン力など机上では学びにくいスキルを磨くことができます。具体的には外部連携プログラムを実施しました。学外の多様な方々との交流は将来を見つめる良い機会になることから、多くの大学や企業に協力していただきました。

ウ 理数科先端科学講座

(ア) ロボット製作講座

専門学科である理数科の1・2年生（2年は希望者）を対象に、マイクロソフト社とベネッセコーポレーションとの協力により開発された理数系人材育成プログラムを総合的な学習の時間に取り入れたもので、生徒はパソコンでプログラミングの基本から学習し、自ら創造するロ

ロボットの開発と製作を行うというものです。この講座はプログラミングからロボット製作に至るまでイメージ教育(英語)を取り入れ、本学園外国人英語教諭の協力のもとTTで授業を展開しました。製作したロボットは、3月20日に行われた「新しい学びフェスタ2017」において他校の生徒とともに成果を発表しました。科学分野における人材育成として生徒のモチベーションを高めることができる試みといえます。今年度もロボットコンテストスタンダード部門で優秀賞を受賞しました。

(イ) 科学実験講座

理数科2年の希望者を対象に、生徒たち自らが企画した研究テーマのもと探求実験を行いました。知識の記憶だけでなく、日常生活の中で、科学的な見方や考え方ができるようにならなければなりません。知識・理解も大切ですが、それと同じように、自然への接し方や観察・実験の在り方、探究の仕方そのものを基礎・基本ととらえなければならないと言えます。

本講座は、生徒たちが探究の方法を理解し、科学的なものの見方や考え方を身に付け、そして現在の科学技術と人間生活のかかわりについて考えるきっかけ作りの方法の一つとして実施しました。研究成果は3月20日に行われた「新しい学びフェスタ2017」において、「顔認証アプリ」「挟まれないドア」「最強のヒートテック」「プラナリア」の4チームがポスターセッションを行いました。

(ウ) 和光理化学研究所研修

理数科1年を対象に、和光理化学研究所一般公開日に毎年先端科学講座の一環として研修を実施しました。理化学研究所は、日本唯一の自然科学の総合研究所として、物理学、化学、生物学、工学、医科学、計算科学、脳科学などの幅広い分野で、基礎から応用に至る様々な研究を実施しています。理化学研究所が生み出している様々な研究成果や最先端の科学・技術に親しみ、理解を深めるため、研究室・施設の訪問をはじめ、講演会、各種体験イベントに参加しました。生徒は研修報告を行いました。

(エ) 理数科サイエンスイマージョン

大学での研究生生活をイメージし、先端科学講座の一環として理数科2年生を対象にサイエンスイマージョン(英語による科学実験実習)プログラムを実施いたしました。理系学部では研究発表や学会発表、共同研究などに英語能力が不可欠であることを踏まえたもので、オックスフォード大学で化学を専攻していた学園の外国人英語教員を講師として実験授業のすべてが英語で行われ、生徒による英語でのプレゼンテーションも行われました。参加した生徒にとっては学術英語を身近に感じ、授業の楽しさと同時に普段の英語とは異なる難しさを実感できる体験となりました。

エ ハーバード英語プログラム

7月28日から3日間、校内で現役のハーバード大学生によるハーバード英語プログラムを実施いたしました。このプログラムは「考える力」(クリティカルシンキングスキル)と英語によるコミュニケーションスキルを伸ばすことを目的とするもので、学生に同行した研修指導者(プログラムスーパーバイザー)の指導ガイドラインに沿って効率的な研修が行われました。語学に関心のある中学生も交えて初日は戸惑いも見せていた参加者はプログラムの進行に伴って自信を深め、実践的な英語研修を通じてグローバル人材への自覚を高めることができました。

オ カリフォルニア大学バークレー校での夏季語学研修

7月31日から9日間、希望者を募って世界トップクラスのカリフォルニア大学バークレー校での夏季語学研修を実施いたしました。この研修では世界各国からの参加者とともに寮生活をしながら授業を受けたり、同大学の学生との交流プログラムやスタンフォード大学訪問などを通じて様々な国からの参加者と交流することができ、英語力向上に加え、“国際人”を目指して人間的にも大きく成長できたことを実感する機会となりました。

なお、スタンフォード大学では同大学で教鞭をとる文理卒業生からお話を聞き、本校からの参加者一人ひとりに激励の言葉をいただくこともできました。この語学研修は事前研修と事後のフォロー研修がセットされた4～5か月をかけての育成プログラムとなることもあり、参加者の大きなスキルアップが認められる試みとなりました。

カ イングリッシュサマースクール

8月2日から3日間、寄居町の施設で希望者によるイングリッシュサマースクールが開催されました。この研修は一日中英語漬けで進められる集中プログラムで、与えられたテーマに沿っての原稿作成から効果的なプレゼンテーションの進め方まで、英語でのグループディスカッションを通じて習得していくというハードなカリキュラムで運営されます。短期間ですが、参加者同士の交流が深まるとともに、国際人として必要な情報発信力を訓練できる貴重な体験となりました。

キ 理数科アメリカ研修

理数科生徒のモチベーションを高める試みの一つとして、昨年度まで実施されていたオーストラリア研修から変更しました。10月26日から8日間、オランダでのNASA研修、ボストンでのハーバード・MIT研修を実施しました。帰国後、先端科学講座で高1理数科の生徒たちに研修のプレゼンテーションを行いました。

ク 課外ゼミ（通年ゼミ、夏季ゼミ、冬季ゼミ、直前ゼミ、春季ゼミ）

1・2年生では基礎力・応用力を養成するゼミ、3年生では大学受験のためのゼミが主要5教科の基礎から応用まで様々なレベルで、年間200講座以上開講しました。

ケ 勉強合宿（3年勉強合宿、2年勉強合宿）

夏休み、希望者を対象に勉強合宿を実施しました。参加した生徒がお互いに切磋琢磨しながら、各自の進路意識を高める。卒業生や教員に質問して問題を解決していく自習形式で行い、個別に質問や相談ができ生徒には好評でした。

(4) 西武文理大学

西武文理大学では ①学生の多様な学習ニーズへの的確な対応と、②木目細かな就職指導体制の強化、を平成28年度の事業計画の骨子として取り組んできました。その取り組みの成果について以下の通りご報告します。

① サービス経営学部

サービス経営学部のグローバル化計画事業として以下の取組を行ないました。

ア BGHC（文理グローバル・ホスピタリティ・センター）の設立

従来のGCC（グローバル・コミュニティー・センター）の上位組織として、28年度は正課外教育も含むBGHCを設置し、国際コミュニケーション能力とホスピタリティマインドをもったサービス人材の育成に取り組んできました。その結果、毎年多数の本学学生が取り組んでいる東

京国際映画祭でのアクティブ・ラーニングプログラムで、28年度は外国からのゲストのアテンドを担当するなど、着実に成果に繋がってきております。

イ 留学先の確保

上記 GCC の成果として学生の留学意欲が高まったことを受け、唯一の提携先であるハワイのカピオラニ・コミュニティ・カレッジ以外にも留学先を確保していくための活動を進めてきました。3年計画で6校程度の提携先確保に取り組んでおりますが、28年度は共同研究等の大学間交流からスタートすべく、イタリアのインスブリア大学 (University of Insubria) との学術交流の合意に関する覚書 (MOU) を締結しました。

ウ 海外フィールドワークの充実

国際的に活躍できるサービス人材育成の一環として、本学が重点的に取り組んでいる海外での体験学習では、カナダ (現地旅行会社での仕事体験)、韓国 (アジアナ航空でのエアライン実習)、ハワイ (本物のブライダル) 等での実習を行ないました。特にハワイでは、震災被災地で挙式が出来なかったカップルにご応募いただく「ブライダル絆プロジェクト」(第6回目)として、本学学生が本物の結婚式をプロデュースしました。

② 看護学部

ア 学生主体の学修活動推進

看護職としての成長に不可欠の「主体的な学び」と「自己学習能力の向上」を身に着けさせるため、本学では一方的な知識伝達型の指導ではなく、学生と教員の双方向的なやりとりを重視する教育に取り組んでいます。授業以外でも幅広く学生の自己学修を支援する体制を整備しているほか、学年ごとの学生委員会を通じて学生が自ら学習課題を見出し、問題解決に向けて主体的に取り組むプログラムが実習先での高い評価に繋がっています。

なお、平成 28 年度の国家試験合格率は看護師で 91.2%、保健師で 95%を達成し、全国平均を上回る実績を維持しました。27年度に比べると、やや厳しい実績でしたが、前記の取組が着実に成果に繋がっています。

イ 看護実践能力の強化

平成 28 年度からの新しい試みとして、学生が自己アセスメント能力と自身の看護技術力を確認し、改めて自らの学習課題の解決に取り組むための講座「看護総合演習」を4年生の後期に開講しました。この演習は、実際の臨床現場を想定した状況で学生が“4年間の学習成果と、身に付けた知識・技術をどのように活かすことが出来るか”を評価するシミュレーションを行うもので、就職後の看護実践能力を更に高める効果が期待されます。

ウ キャリア開発支援活動

卒業生が生涯を通じて看護師として成長していくことができるよう学生のキャリア支援と就業支援に取り組んできました。具体的には、実務者の体験を学ぶことで看護職をめざす学生自身の自覚と意識形成をサポートし学生が看護者としての自身の未来像をイメージしながら主体的な就職活動に取り組むことが出来るよう、就職試験対策も含めて幅広く支援していくもので、学生委員が中心となって企画運営しました。なお、平成 28 年度卒業生の進路は殆どが看護師としての就職で、地域的には東京都への就業者が約 6 割、埼玉県が 3 割でした。

エ 宣誓式

臨地実習に臨む学生が看護職としての自覚を高めるセレモニーとして実施していた“キャン

ドルセレモニー”を改め、平成 27 年度から“宣誓式”を実施しています。本格的な臨地実習に臨む 3 年生が、看護を志す者として自己をしっかりと見つめ、振り返りと将来に向けて自己の意志を固める等の動機づけを目的とするもので、28 年度も 5 月に実施いたしました。来賓や保護者、後輩の見守る中で個々の学生が自らの意志を示した宣誓書を読み上げ、臨地実習に向けて自身の心構えを再確認する機会となりました。

オ 卒業生の組織化

今春卒業の第 5 期生を含めると、卒業生数は 400 名に達します。看護専門職としての成長には卒業生同士の相互支援や研鑽が必要であることから、平成 28 年 10 月卒業生有志による看護学部同窓会が発足しました。本学としてもホームカミングデーを開催して、母校の現状報告や教員による講演等で卒業生に最新情報を提供し、卒業生同士の近況報告や教職員との交流が出来る機会としました。今後も卒業生との繋がりを大切に、支援体制を整えてまいります。

③ 就職支援

実践的な学習を重んじる本学サービス経営学部の教育活動は社会から高く評価されており、学部全卒業生の就職率は 87.5%と過去最高となりました。サービス経営学部では職業意識の形成をめざす『キャリア開発』の授業を全学年で必須としているほか、学内での企業説明会の開催や有料の就職対策特別講座の開設、就職指導担当者による木目細かな支援活動等が相俟って高い就職率に繋がっています。

また、看護学部の学生は、ホスピタリティ精神を身に付けた看護師として実習先からの評価が高く、就職希望者は 5 年連続で就職率 100%を達成しました。

④ 高大連携

高大連携への取組として、併設校である西武学園文理高等学校と「高大連携協議会設置に関する覚書」を締結し、本学教員による高校での授業や本学で実施しているアクティブ・ラーニングの授業に文理高校生が特別参加する等の相互交流を進展させました。また、高等学校の学園祭では両学部の教員がそれぞれ特別講座を実施、看護学部では AED などの救命体験ブースを設置するなど、協力関係を強化しました。

⑤ 地域貢献活動等

ア 地域貢献

平成 28 年 4 月、「西武文理大学と狭山市との連携に関する基本協定書」を締結し、従来からの狭山市との協力関係を更に強化しました。この協定を通じて地域社会の発展に資する人材育成や、まちづくりへの寄与を通じて包括的かつ継続的な協力関係を拡大していくことを確認しました。また、平成 28 年度の市内大学連携事業である「狭山市の魅力づくり事業」に本学の学生が参画しました。また、既に恒例となっているボランティア活動では 28 年度も入間川七夕まつりでの運営のお手伝いや、高齢者施設の皆さまにお祭りを楽しんでいただくためのサポートをはじめ、積極的かつ継続的な取組により、地域との連携を深めました。

イ 地元との連携

本学の体験学習の一環として、プロ野球の西武ライオンズやサッカー J1 の大宮アルディージャなど地元企業とのコラボレーション企画を進めました。また、「さやま市民大学公開講座」では本学教員が「2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～スポーツの楽しみ方～」

のテーマで講座を担当し、国民的なイベントである東京オリンピック・パラリンピックを成功させるための活動にも貢献しました。

ウ 看護学部の地域貢献活動

看護学部の地域貢献活動として地域住民の健康増進活動や地域の看護職の研究指導等を実施しました。

(7) 高齢者のアクティビティ・ケア学習

さやま市民大学の「健康づくり・介護予防サポーター養成学科」の受講生と本学看護学部生の共同授業として「高齢者のアクティビティ・ケア学習」を行い、相互理解を深めるとともに、学生にとっても効果的な学修体験となりました。

(イ) 「健康ひろば」、地域防災活動への参加

地域住民の皆さまとの連携を深めるため、老人クラブ連合会主催で毎月実施されている健康ひろば」に教員と学生が参加し、健康講話や健康相談、体操等の活動に協力しました。また、地区の防災まちづくり推進委員会活動にも参加し、地域住民による防災活動計画にも参加しました。

(ウ) 地域の看護職の研究活動支援

地元に着した教育機関として地域の看護協会に所属する臨床看護職を対象とした研修や地元病院での研修を実施しました。看護学部教員が企画・運営するほか、講義や看護研究の指導、研究成果の公表支援にも携わりました。本学キャンパスを地域の看護職の方に開放しての研修など地域に根ざした大学の社会貢献活動として継続的に取り組んでまいります。

⑥ 設備改善

平成 28 年度は、施設設備改修事業として経年劣化と使い勝手の悪さが指摘されていた 2 号館の空調設備更新工事第 1 期工事を実施しました。平成 29 年度の第 2 期工事と併せて空調の更新、照明の LED 化が完了し、静かで明るく省エネにも配慮した教育研究環境が整います。また、老朽化が進んだ 1 号館のエレベーター改修も実施し、安全確保と省エネを実現しました。

⑦ その他

ア 事務効率化

各種証明書の発行事務を効率化するため証明書発行機を新規に導入しました。これに伴い、学生窓口の混雑緩和と迅速な処理が可能となり、学生にも好評であるほか、手数料精算等の事務作業が大幅に効率化されました。また、入試の出願を Web 化したことに伴い、出願手続きが簡便になると同時に入試関連事務の大幅な負担軽減が図られ、事務効率化に繋がりました。

イ ガバナンス強化

大学は多くの委員会組織を通じて運営しておりますが、全体統制を強化するため、学長・学部長・事務局長を構成メンバーとする学長室会議を設置し、流動的な社会情勢に即応するとともに、学内での情報共有と迅速な意思決定を実現する体制を整備しました。また、全教員を対象としてコンプライアンスや研究倫理の研修を実施したほか、学生・教員を含めたハラスメント対策（規程見直し・研修）も実施しました。

(5) 専門学校

本学園が設置する専門学校は、埼玉に2校、東京に2校、合計4つのキャンパスがあります。栄養士、臨床検査技師を養成する所沢校、言語聴覚士養成の池袋校、義肢装具士養成の新宿校、そして、ふじみ野市には、調理師養成の西武文理大学附属調理師専門学校があります。

ふじみ野校を除く医療系4学科は、「ホスピタリティ」の心と「高き志」「確かな技術」を備えた医療人を育てるプロフェッショナル教育の実践という理想を追求した実学教育を実践しています。

①地域との連携

各校は文化祭等を通じて、地元の皆さまに各校の特色を伝え、特に栄養士・調理師科では「地産地消」を掲げて地域連携に重点を置いた活動を展開しています。

ア 所沢市との官学連携協定

専門学校生が地元所沢産の野菜をアピールするため、オリジナルレシピを開発するなど、従来からの幅広い協力関係を更に拡大しています。

イ エプロンシアターで食育活動

栄養士科2年生が近隣の小学校を訪問し、低学年の児童を対象に食育シアターの寸劇を通して朝食の大切さをアピールしています。

②Web化の推進

専門学校の学生募集は、対象が高校卒業生、大学生、社会人であり、地域的にも埼玉近在者のみではなく全国規模での募集活動となります。こうした条件での募集活動では、いわゆる「アナログ」的な紙ベースでの情報伝達では、対処しきれないといえます。

従来、本校では募集広報関係の印刷物は、学内で作成した上、来校者への配布、DMでの郵送、学校訪問の際の持参など、限られた手段・方法での広報活動にとどまっていました。

Webへの対応は一部で実行されていたとはいえ、十分ではなかったため、28年度にホームページをリニューアルする機会に、できる範囲でのWeb化を進めることとしました。

ア 28年度にリニューアルしたホームページは、パソコンのみではなく「スマホ」にも対応しています。また、学校別のURLも設定し使えるようになったことで、外部からの問い合わせへの対応力が上がってきました。

イ アクセスオンラインにコンバージョンタグを埋め込みました。これは、どこのホームページから本校のホームページに来たのかが分かるものです。データが収集できるので、反応の高いホームページに広告費用を使うことができ効率性が高まりました。

ウ SNSの活用 「Facebook」「twitter」により、本校のホームページの定期配信の最新情報と連動させ情報を伝えていくことにしました。28年度は「Facebook」を使っていましたが、若者のSNSの活用頻度からみて、29年度は「twitter」を活用していくことに決めています。若者に人気の「Line」は、「即応性」が要求されるため現状では活用は難しいと考えています。

③ 国家試験合格、就職100%達成を目指して

ア 国家試験への取り組み

専門学校は、実学の学校であり、最終的には国家試験に合格し、その「資格」を生かして就職していく、というコースが描けます。西武学園の各校では“ホスピタリティスピリットに満ちた食と医療のスペシャリストの育成”に取り組んでおり、国家試験の合格に向けたサポートを最優先課題として展開しています。特に、試験の直前には、学園の学習施

設「文理総合学習センター」において終日「国試」対策の直前講習に臨ませています。

イ 抜群の就職率

資格を取得した学生は、自分の希望にあわせた就職活動を行いますが、本校では長年に渡って築かれた第一線で働いている卒業生との信頼のネットワークで結ばれていますので、就職先も安心して探すことができます。就職率 100%を達成するのは西武学園のミッションです。

以上